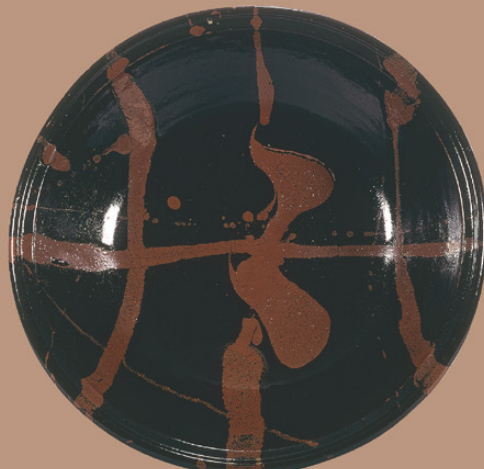


# 人間国宝 濱田庄司の陶芸

2010年4月17日[土] - 6月6日[日]



《青釉白黒流掛大鉢》 c.1956 茨城県陶芸美術館蔵



《黒釉錆流描大鉢》1969 川崎市市民ミュージアム蔵



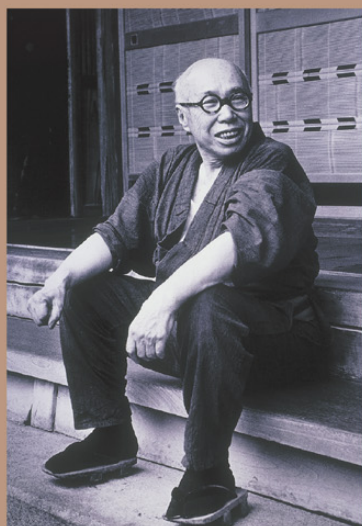
《赤絵皿》東京工業大学百年記念館蔵



《琉球絵刷毛目花瓶》1925 益子参考館蔵



《青釉文打十字流掛角皿》1958 日本民藝館蔵



陶芸家・濱田庄司（1894～1978）は、柳宗悦とともに民藝運動の提唱者であり、最初の人間国宝（第1回重要無形文化財技術保持者）となった陶芸作家でもあり、近代工芸史に大きな足跡をのこしています。

「京都で道を見つけた、英国ではじまり、沖縄で学び、益子で育った」という自身の簡潔な言葉が、なによりも的確に濱田の作家活動を示しているといえるでしょう。栃木県益子での活動がよく知られていますが、作家としての始まりはイギリス西南部のセント・アイヴス、最初の個展もロンドンで開催しています。渡英までは東京高等工業学校の窯業科を経て、京都市立陶磁器試験場で助手として釉薬の研究に励んでいました。こうした研究者としての知識の裏づけがあったからこそ民藝運動の中心人物として各地の窯を調査し、その成果を制作にも活かすことができたと考えられます。また、沖縄では古窯壺屋において職人たちの健やかな作陶生活や自然にも心魅かれて、制作上のインスピレーションを得ています。そして益子ではこうした経験を集約して濱田の作風を確立していききましたが、彼の大きな力によって益子焼そのものが変容していくこととなります。

本展覧会はこうした陶芸家・濱田庄司の全容をたどり、自ら陶工と呼ぶことを好んだ濱田の世界を満喫していただくとするものです。

**濱田庄司** はまだしよじ（本名 濱田象二）  
 明治27年(1894)12月9日生～昭和53年(1978)1月5日没  
 昭和30年(1955)2月15日重要無形文化財「民芸陶器」の保持者に認定  
 神奈川県川崎に生まれる。東京高等工業学校で飯谷波山に学ぶ。また河井寛次郎を知り、卒業後、京都市陶磁器試験場でともに釉薬等の研究を行う。のちバーナード・リーチと一緒に渡英、セント・アイヴスに窯築して作陶。帰国後栃木県益子に入り、以後定住して制作活動を続けた。この間しばしば沖縄を訪れて制作を行い、また柳宗悦等と民芸運動に参加した。  
 また、沖縄や朝鮮半島をはじめ世界各地の民衆雑器から健康的な美しさと伝統的技法を学び、吸収した。そして、従来から益子で使われてきた陶土や釉薬を生かしながら、さまざまな技法による作品を制作して、すこやかに雄動、自由闊達な中にも厳しさのある独自の作風を創出した。昭和43年(1968)文化勲章受章。



《茶茶碗》1977 個人蔵



《良夜》「層雲」4巻11号  
 1914 川崎市市民ミュージアム蔵



◎北陸自動車道・砺波I.C.より車で5分  
 ◎JR北陸線高岡駅より城端線に乗換ええ20分、砺波駅下車徒歩15分  
**TONAMI ART MUSEUM**  
**砺波市美術館**  
 〒939-1383 高知県高岡市高道145-1 (砺波チュリップ公園内)  
 TEL.0763-32-1001 FAX.0763-32-6361  
 URL:http://www.city.tonami.toyama.jp/shisetsu/bijyutu/bijyutsu.html

展示内容  
 序章:雑誌投稿の挿絵 / I:陶工の軌跡(1.セント・アイヴス/2.沖縄/3.益子でのさまざまな試み)  
 II:窯にまかせて(1.文様を描く/2.流掛と流描/3.釉薬の効果/4.沖縄と赤絵/5.最後の試み)

関連催し  
 ○記念講演会「濱田庄司の軌跡(仮)」  
 濱田友緒(陶芸家 濱田庄司令孫)  
 5月9日(日) 午後1時30分から午後3時まで  
 当館2階 市民アトリエにて(聴講無料)  
 ○ギャラリートーク(担当学芸員による)  
 4月18日(日)、5月22日(土) 各回午後2時より展示会場にて(要観覧券)

次回展のご案内【となみ野美術展2010】